

日本天文学会 2023 年春季年会のアンケート結果

日本天文学会 年会実行委員会

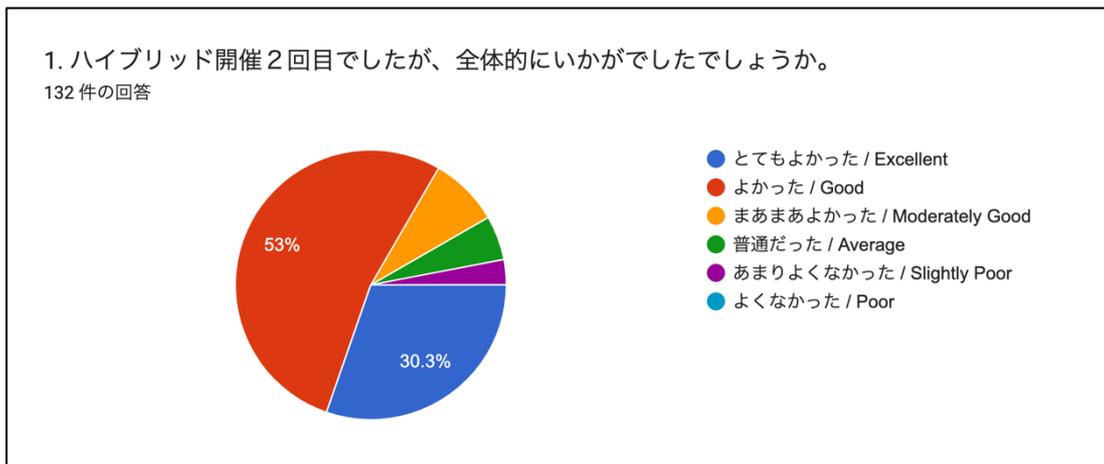
2023 年春季年会は、3月13日(月)から 16日(木)の 3日間、立教大学池袋キャンパスにて開催した。新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しつつ、ハイブリッド形式（現地・オンライン双方から講演と聴講が可能）での開催とした。日本天文学会年会として 2 回目のハイブリッド開催であった。以下に年会後に実施したアンケートの結果について報告する。

アンケートは 2023 年春季年会の参加者を対象として Google フォームで実施し、集計した。アンケートの回答数は以下であった。

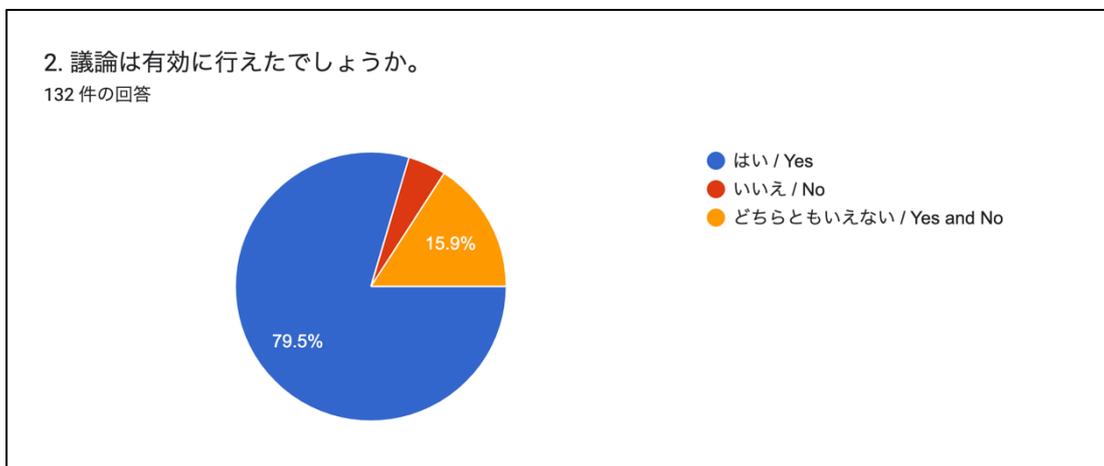
回答数：132 件

次ページから個々の質問の結果について概要を報告する。

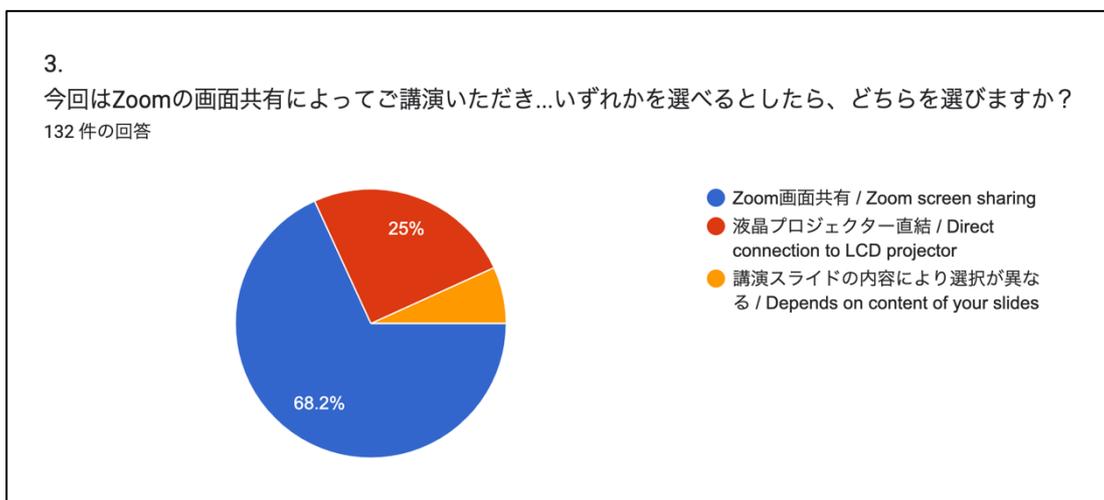
1. ハイブリッド開催2回目でしたが、全体的にいかがでしたでしょうか。



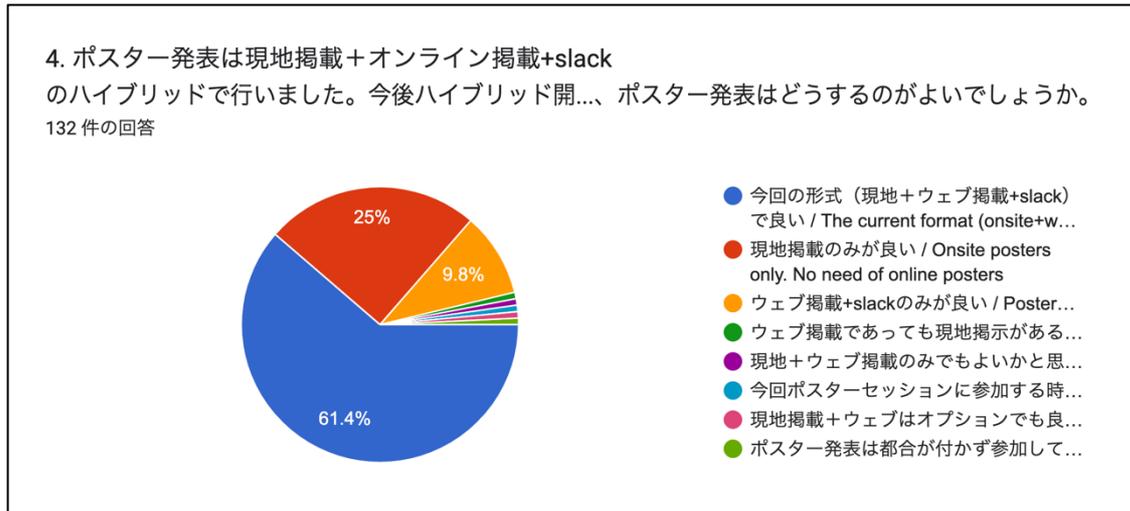
2. 議論は有効に行えたでしょうか。



3. 今回は Zoom の画面共有によってご講演いただきました。もしあなたが講演するときに、Zoom の画面共有と PC を液晶プロジェクタへ直接つなぐ方法のいずれかを選べるとしたら、どちらを選びますか？



4. ポスター発表は現地掲載+オンライン掲載+slack のハイブリッドで行いました。今後ハイブリッド開催が行われる場合、ポスター発表はどうするのがよいでしょうか。



5. 年会実行委員会では、予稿登録システムの更新を検討しています。講演登録や予稿投稿の方法についてご意見ご希望があればご記入ください。

—省略—

6. 上の質問を含め、今後の年会開催方法についてご希望やご意見などがあれば自由にご記入ください。

—省略—

第2部 長期的・COVID-19の影響がなくなった後の年会開催モードについての質問

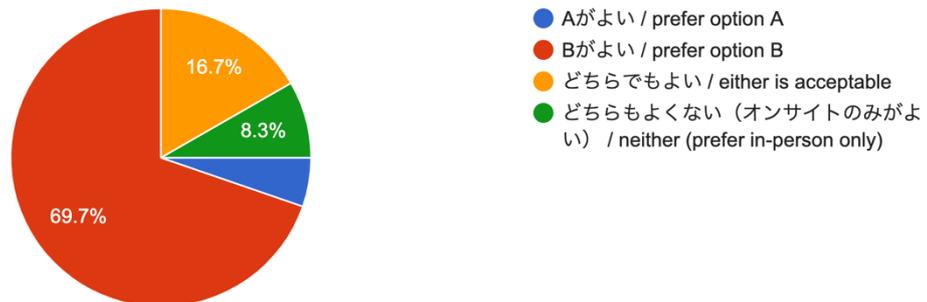
Q1 ハイブリッド開催の仕方として、大きく二つの方法が考えられます。以下の開催方法について、どう思われますか？

A：オンサイトとオンラインのみの年会を開催する。

(例えば春季年会はオンサイトのみで秋季年会はオンラインのみで開催)

B：新潟大学、立教大学の年会のようにオンサイトとオンラインを同時に行う。

Q1 ハイブリッド開催の仕方として、大きく二つ...のようにオンサイトとオンラインを同時に行う。
132件の回答



Q2 ハイブリッド開催の場合、以下の3つのタイプが想定されますが、どのタイプがよいと思いますか？ 但し、いずれの場合もポスターセッションはオンサイト実施を想定しています (オンラインはPDF ファイルを置くだけ等の対応を想定)

タイプ1：発表は現地のみ。オンラインでは、視聴配信のみ

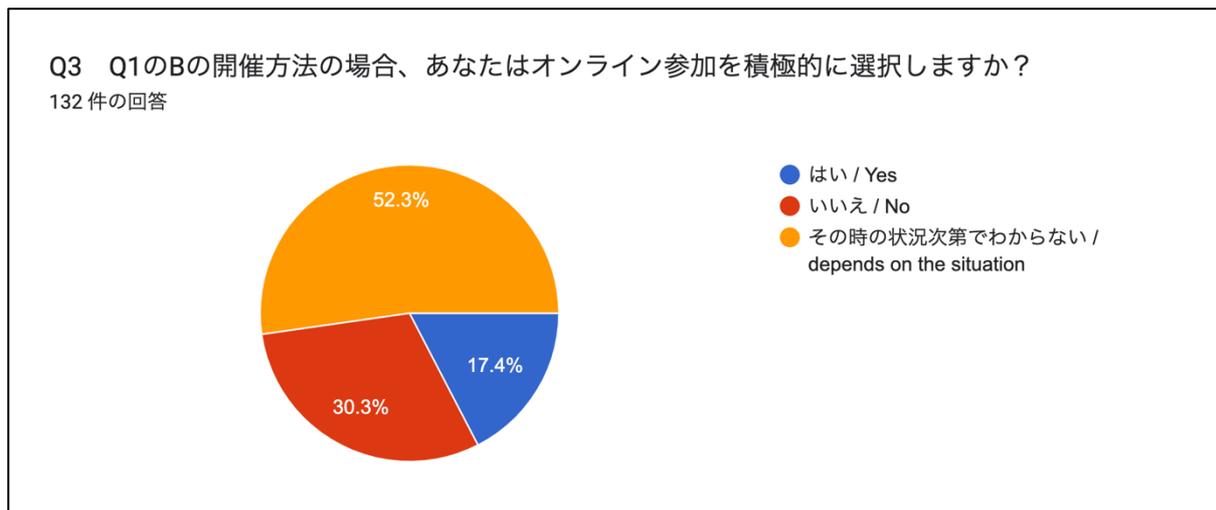
タイプ2：オンラインで質疑も可能とする

タイプ3：オンラインで講演も質疑も可能にする

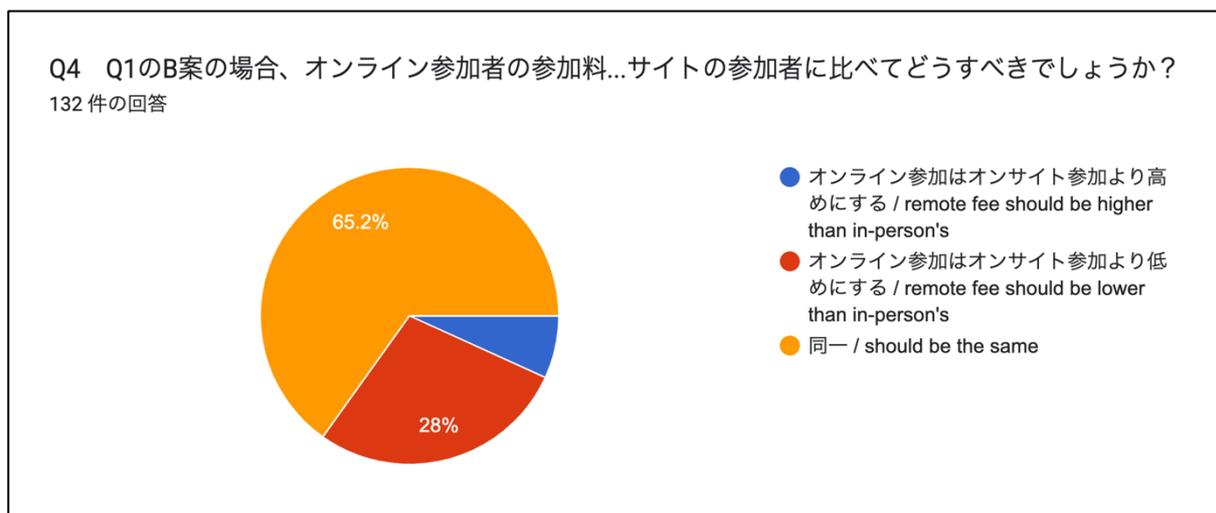
Q2 ハイブリッド開催の場合、以下の3つのタイプ...タイプ3：オンラインで講演も質疑も可能にする
132件の回答



Q3 Q1のBの開催方法の場合、あなたはオンライン参加を積極的に選択しますか？



Q4 Q1のB案の場合、オンライン参加者の参加料（と講演料）はオンサイトの参加者に比べてどうすべきでしょうか？



Q5 第2部の範囲でご意見があればご記入ください。

—省略—

以上